柏崎市中央地区総合防災訓練（多言語支援センター設置運営訓練）2017

アルフォーレで行われた総合防災訓練に参加し多言語支援センターの活動訓練をする。人材育成事業の一環であり、言語文化サポーター・多言語支援ボタンティアの研修をする。今年は「シェイクアウト運動を母国に広めよう」をテーマに訓練した。

・平成 29 年 9 月 24 日（日）午前 10 時より 13 時半まで
　会　場：市民プラザ、アルフォーレ
　参加者：16 名（サポーター4 名、留学生 5 名、協会理事 3 名スタッフ 3 名、市 1 名）

防災訓練

・センター長（柏崎市）1 名
・コーディネーター（協会）1 名
・ボランティア（英語・中国語・ベトナム語・モンゴル語・インドネシア語）15 名

今年のテーマ
1. シェイクアウト訓練
　① 実際に行動する
　② 母語に翻訳

2.「災害ゆびさし会話帳」
　実際に使用してみる
　地図で現在地確認

　集まってくれたボランティアの言語で作る

9:30　名札に話せる言語を表示
　　シェイクアウトの合言葉を翻訳
10:00 市民プラザ　受付
　　シェイクアウト訓練について説明
　:13 市民一斉安産行動訓練として防災無線から流れる合図に合わせて「まずひくく」「あたまをまもり」「うごかない」自分の言葉で声を出し、1 分間その場所から動かない活動をする。机の下大多数、ドアの横 1 名。その後、
野外で起こった場合、室内の場合、大勢の集まる場所など想定し、「安全に身を守るには」を一緒に考えた。その後徒歩でアルフォーレに移動する。

10:50 柏崎市文化振興課がセンター長となり「多言語支援センター」開所宣言。

ボランティアを４班に分け、２班ずつ活動を分ける。

1.２班…翻訳⇒NTTWEB171の多言語表示を NTT のコーナーに掲示させてもらう。「多言語センター」から来た旨を説明する。本部・災害ゆびさし会話帳など置かせてもらう。近くのテントにも紹介する。

3.４ 班…会場巡回⇒外国人避難者の有無、翻訳しないとわからないであろう掲示物の点検。その後、班を入れ替えてテント待機、巡回に分かれてブース体験。免震構造体験車、AED・心臓マッサージ体験、停電時の自販機発電など実際に体験して回る。

センターでは、本部から出されたと想定したライフライン(電気・水道・ガス)情報を、中国語・モンゴル語・ベトナム語に翻訳する。翻訳したものをテント前に貼りだす。

再度本部へ、新情報が出ていないことを確認してセンター閉所宣言をした。

12:20 アルフォーレ会議室で、昼食兼反省会をする。

13:30 ドクターヘリ見学や他の防災体験ができるので現地解散とする。

活動振り返り事項

・多言語支援ボランティアを続けている今回は友達を誘った。(やっていることが)その時々で違う。続けていることが大事。いつも新しい発見がある。
・とても役に立った。
・近くに知り合いが多い処にいる外国人はいいが、孤立している人には情報が届かないと思う。
・防災訓練があると聞いて参加したが、防災訓練がどんなものか知らなかったので、こんな大掛かりのイベントでびっくりした。母国ではこういう訓練はない。
・地震の時、どこに逃げてどうすればよいのか知りたい。(大学に指導をつなげる)
・地震の経験はない、地震の車(免震建物揺れ体験)はこわかった。
・おもしろいことをたくさんしたし、参加して良かった。
・多言語表記や、やさしい日本語表記を行政も意識して最初から作っていれば多言語支援センターはいらない。そのことをアピールしていくのも協会の役目ではないか。
・国や在留形態で情報の伝え方がちがう。自分たちは SNS でグループを作っているのでそれを使える。

9/24/2017